

無人化施工によるブロックの施工事例

無人化施工とは、施工中に土石流、土砂崩れや落石の発生、あるいは噴石の飛来などが想定され、作業員が立ち入ることが危険な工事現場において、作業員の安全を確保するため、遠隔操作が可能な建設機械等を用いて建設工事を行うことを言います。

無人化施工が必要とされる現場においては、施工期間が長くなるほど被害リスクが高まることから、現場での工種が少なく、短期間で施工でき、また、構築した施設の機能がなるべく早く発現されることが求められます。このような条件に対して、ブロックは優れた特性を持ち、無人化施工では異形ブロッ

クや大型の残存型枠ブロックが多く採用されます。

無人化施工に使用するブロックには、①無人化機械・装置で効率よく据え付けられること、②低い据え付け精度でも構造物として一体性が得られるかみ合わせを持つこと、③地盤が不同沈下等により変形しても追従して構造物の一体性を確保できることなどの機能が求められます。

当社では、無人化施工に対応できる様々なブロックを提供していますが、以下に無人化施工に適用されたブロックの施工事例をご紹介します。

無人化施工によるブロック施工箇所（抜粋）

施工年度	発注事務所	工事名	工種	使用ブロック	規格
平成 7年度～	雲仙復興事務所	水無川左岸導流堤工事	導流堤	Pcaブロック	2t
9年度～	糸魚川土木事務所	山梨川災害関連緊急砂防工事	護岸工	ビーハイブ	2t型
15年度	富士川砂防事務所	大春木川上流第2砂防堰堤工事	砂防堰堤	Pcaブロック	2t
17年度	福井河川国道事務所	雲川災害復旧工事	護岸工	ビーハイブ	3t型
18年度～	神通川水系砂防事務所	白谷第6号砂防堰堤工事	砂防堰堤	鎧ブロック	零型、貳型
19年度～	松本砂防事務所	小滝第3号砂防堰堤工事	砂防堰堤	鎧ブロック	零型、貳型
19年度～	松本砂防事務所	金山沢溪岸工工事	護岸工	鎧ブロック	零型
20年度	利根川水系砂防事務所	三原第7帯工工事	帯工	六脚ブロック	A0.80形(8t)
20年度	立山砂防事務所	桑谷護岸工事	護岸工	鎧ブロック	零型、貳型
21年度～	松本砂防事務所	葛葉下流第1号帯工工事	護岸工	鎧ブロック	零型
21年度～	松本砂防事務所	小滝第1号砂防堰堤工事	砂防堰堤	鎧ブロック	零型、貳型
21年度	富士川砂防事務所	平成21年度釜無川本川山腹基礎工事	護岸工	ビーハイブ	1tキリコミ型
25年度	立山砂防事務所	有峰地区溪流対策(その3)工事	砂防堰堤	鎧ブロック	零型、貳型、五型

● 六脚ブロック（利根川水系砂防事務所／三原第7帯工工事／帯工）



● ビーハイブ（福井河川国道事務所／雲川災害復旧工事／護岸工）



● Pca ブロック（雲仙復興事務所／水無川左岸導流堤工事／導流堤）



● 鎧ブロック（神通川水系砂防事務所／白谷第6号砂防工事／砂防堰堤）

